

## リハ専門相談 事例紹介シリーズ⑦

# 心とからだの負担、リフトが担います

「娘さんの腰が限界です」とケアマネジャーから電話でリハ専門相談を受けました。脳梗塞のあと認知症のある 90 代の母と娘さんが同居している家庭についての相談でした。本人は安定して座っていられず、小柄で足が着かないために抱え上げて介助していました。

抱え上げによる介助は、介助者だけではなく本人にも負担が大きくなります。また、トランスファーボードでの座位移乗も倒れないように常に体を支えるため思うように負担が減らないこともあります。このような場合、リフトを使った介助が有効になります。リフト移乗は手間は多くなりますが、一度手順を覚えると本人と介助者の負担が激減します。負担の多い介助を続けてできた拘縮や褥瘡の予防にも有効であるとの報告もあります。本人の体に合った吊り具選びも成功の秘訣です。

今回の相談の方にもリフトでの介助を提案しました。まずは介助者自身にリフトに乗ってもらい、体にやさしいことを体感してもらいました。そのうえで介助者がリフトを操作し、本人の移乗をしました。吊り具の選定とその後レンタルを開始し、リフトを使い始めて、少し介助者の心と体に余裕ができたようです。



(平田 学)